

牧羊ひろば



知多教会 教会学校

●知多教会の沿革

知多教会は一九五三年（昭和二八年）、日本伝道隊P・T・ルーク宣教師夫妻の開拓によって始められた教会です。以来、知多市内の寺本、朝倉、古見といった場所を経て、一九八五年（昭和六〇年）つじが丘に前の会堂が与えられました。そしてその地での二七年にわたる教会活動の後、二〇一二年、そこから一・六キロ離れた八幡新町に現在の新会堂が完成しました。設立当初の寺本、朝倉といった地に近く、かつての場所に戻ってきたと言いうこともできます。

●教会周辺の地理的、文化的背景

知多市は江戸時代に知多木綿が江戸でもてはやされ、昭和四〇代まで木綿産業が非常に盛んであった地です。現在は人口8万6千人、名古屋市まで電車で約20分のベッドタウンであり、臨海工業地帯には中部電力、出光、日鉱日石の石油工場、IHIの造船所などがある工業地域で

す。いちじくやたまねぎ、ペコロス（小たまねぎ）を名産とする農業も盛んで、古きと新しきが同居する町と言えます。前の会堂があったつじが丘は新しく造成された団地でしたが、こちらは八幡、寺本という地名が表すとおり、寺社が多く、古くからの因習が根強く残っている土地です。それゆえ、子どもが教会に行くことを親が快く思わない、あるいは地元の子どもの祭儀が自治会や子ども会と結びついていることなど、以前の場所ではあまり感じなかったさまざまな戦いがあります。

●礼拝と分級

知多教会では教会学校の礼拝を日曜日の午前9時から行っています。CS教師は6名で、出席生徒は5名から多いときで10名ほどです。前半30分が全科そろっての礼拝、後半の30分は、幼稚科、小学科、中高科に分かれての分級です。礼拝では2曲賛美しますが、うち一曲はその月のテーマソングとして一か月間、毎週賛美します。ちなみに10月は「ラララ



CS礼拝風景

「ジョイジョイ」でした。伴奏はエレクトーン、ピアノ、オカリナとバラエティに富んでいます。牧師もこの6月からやっとギターの練習を始めました。カホン（打楽器）を購入したところ、子どもたちがピアノやタンバリンと合わせて音遊びをするようになり、しめしめと思っています。

礼拝では、その日のプログラムに沿って、賛美の歌詞、主の祈り、暗唱聖句、フラッシュカードなどをプロジェクトで投影します。フラッシュカードは説教担当者が前もってカラーペンや色鉛筆で彩色し、それを牧師がスクリーンに取り込んで加工します。最近のプロジェクトはパソコンなどがなくてもSDカードやUSBメモリから直接投影できるものが増えていきます。面倒な接続が不要ですのでおすすめです。年配のC S教師でも慣れた手つきでリモコンを操作し、フラッシュカードのページ送りをしながら、子どもたちに聖書のお話をしています。

●年間の行事

主だった行事を紹介させていただきます。

①《イースター・エッグハント》 20個入りなどで売られている小さな卵型チョコをたくさん（100個ほど）、教会の中のあち

らこちらに隠します。チョコが溶けて周りを汚してしまわないように、百均などで買えるチャック付の小袋で個装します。小さな子から始め、学年毎に時間差でスタートします。子どもたちが真剣に探しても、毎年いくつかは見つけきれず、数ヶ月後に発見されます。

②《花の日》 近くの朝倉駅と知多警察署をお花とカードをもって訪問します。駅は忙しいので賛美は割愛しますが、警察署では賛美を披露し、感謝のメッセージを伝えます。警察署は、以前はあまり歓迎されている雰囲気ではなく、写真もご遠慮くださいとのことだったので、数年前に署長さんが代わってからは歓迎ムードになり、今年はなんと、子どもたちへのプレゼントを用意して待っていてくださいました。

③《子ども大会》 毎年5月と12月に、子ども大会を開催しています。ゲーム、賛美、アニメ映画（こいのうんち、たいせつなきみシリーズ、三本の木など）、そして聖書のお話とといったプログラムです。12月はクリスマス子ども大会なので、サンタさんがやってきて、子どもたちにプレゼントを配っ



花の日

てくれます。二〇一二年に京都教区で綿菓子機を購入し、教区の教会で交代で使用するようになりました。以来、知多教会でも子ども大会の時には、綿菓子機が大活躍で、好評を博しています。

④《東海地区CSキャンプ》 夏のキャンプは名古屋教会、名古屋東教会と合同で行っています。二〇一二年までは、一泊二日でテントを張って行う本格的なキャンプをしていたのですが、奉仕者の高齢化などから、今までのようなキャンプを行うことが困難になり、二〇一三年から新しい試みで、日



東海地区CSキャンプ

帰りのデイキャンプとなりました。会場の東海市しあわせ村は、無料のキャンプ兼バーベキュー場（要予約）、室内プール、公園などが一体となっており、一箇所ですべてのプログラムがこなせる素晴らしい場所です。午前中はバイブルタイムⅠ、お昼にはバーベキューを楽しみ、午後には温浴施設やスライダーもある室内プール、それからスイカ割りをして、夕方にバイブルタイムⅡをして解散というプログラムです。ワークAでおなじみの吉田美穂先生が講師としてお越しくだ

さり、とても分かりやすく楽しいお話しをしてくださいました。一泊で慣れた子どもたちが日帰りで満足してくれる心配でしたが、予想以上に好評だったようです。

●教会学校の現状と将来への展望

多くの教会と同様、教会員の子ども・孫たちが中心の生徒構成です。それもまた感謝なこと、託されている子どもたちへの信仰継承に祈りつつ真剣に取り組んでいきたいと思えます。前の地域から引き続き教会学校に来てくれるお友だちがいます。本当に感謝なことです。教会は移転しましたが、宣教地が変わったのではなく、宣教地が広がったと捉え、子ども大会のチラシなどは、以前のつつじが丘の小学校にも配布するようにしています。

先に、新しい地では、親の警戒心が強いと書きましたが、そのことも前向きに捉え、祈りつつ戦略を練っていくべきだと思います。子どもだけに狙いを定めるのではなく、親と子をセットにとらえ、福音を聞いていただく前に、教会に対する警戒を解いていただくためのプログラムを整えていく必要を感じています。何か良いアイデアがありましたら、ぜひ教えてください。何か良ければ幸いです。

（中島啓一）